

【注意事項】**CS+用 RX コード生成****e² studio (Code Generator プラグイン)****RX コード生成支援ツール AP4****概要**

CS+用 RX コード生成、e² studio (Code Generator プラグイン)、RX コード生成支援ツール AP4 の使用上の注意事項を連絡します。

1. シリアルコミュニケーションインタフェース SCI6 に関する注意事項

対象 : RX231 グループ(100 ピン製品)、RX230 グループ(100 ピン製品)

2. コード生成機能の設定保存についての注意事項

対象 : RX110 グループ、RX111 グループ、RX113 グループ、RX130 グループ、RX230 グループ、RX231 グループ、RX23T グループ、RX24T グループ、RX64M グループおよび RX71M グループ

1. シリアルコミュニケーションインタフェース SCI6 に関する注意事項**1.1 該当製品**

- CS+用 RX コード生成 V1.10.0
- e² studio V5.0.0.043 以降 (Code Generator プラグイン V2.3.0 以降)
- RX コード生成支援ツール AP4 V1.09.00

1.2 該当 MCU

- RX ファミリ : RX231 グループ(100 ピン製品)、RX230 グループ(100 ピン製品)

1.3 内容

シリアルコミュニケーションインタフェースの SCI6 のクロック入出力端子を P34 に設定した場合の生成コードに誤りがあるため、通信を行うことができません。

1.4 発生条件

以下の条件のいずれかを満たした場合に発生します。

- 調歩同期式の場合 :
転送速度設定の SCK6 端子機能で[クロック出力]と[P34]を選択する。
- マルチプロセッサモードの場合 :
転送速度設定の SCK6 端子機能で[クロック出力]と[P34]を選択する。
- クロック同期式の場合 :
転送速度設定の転送クロックで[P34]を選択する。
- スマートカードインタフェースの場合 :
転送速度の SCK6 端子機能で[クロック出力]、転送クロックで[P34]を選択する。
- 簡易 SPI モードの場合 :
転送速度設定の SCK6 端子機能で[P34]を選択する。

1.5 回避策

以下の関数の P34 端子機能レジスタ(P34PFS)の設定値を正しい値に修正してください。

- ・ソースファイル“r_cg_sci.c”の関数“void R_SCI6_Create(void)”

なお、コード生成後は常に修正が必要です。

以下に修正内容の詳細を記します。赤文字の部分が修正箇所です。

修正前：

```

/*****
* Function Name: R_SCI6_Create
* Description  : This function initializes SCI6.
* Arguments   : None
* Return Value : None
*****/
void R_SCI6_Create(void)
{
.....
    /* Set SCK6 pin */
    MPC.P34PFS.BYTE = 0x0AU;
    PORT3.PMR.BYTE |= 0x10U;
.....
}
    
```

修正後：

```

/*****
* Function Name: R_SCI6_Create
* Description  : This function initializes SCI6.
* Arguments   : None
* Return Value : None
*****/
void R_SCI6_Create(void)
{
.....
    /* Set SCK6 pin */
    MPC.P34PFS.BYTE = 0x0BU;
    PORT3.PMR.BYTE |= 0x10U;
.....
}
    
```

1.6 恒久対策

今後のバージョンで改修予定です。(2016年10月予定)

2. コード生成機能の設定保存についての注意事項

2.1 該当製品

- e² studio V5.0.0.043 以降 (Code Generator プラグイン V2.3.0 以降)

2.2 該当 MCU

- RX ファミリー : RX110 グループ、RX111 グループ、RX113 グループ、RX130 グループ、RX230 グループ、RX231 グループ、RX23T グループ、RX24T グループ、RX64M グループおよび RX71M グループ

2.3 内容

e² studio のコード生成機能を使用して周辺機能設定を行うと、プロジェクトの保管ができなくなる場合があります。その場合、[ファイル]メニューの[保管]または[すべて保管]を選択することができません。

2.4 発生条件

以下の操作を行った場合に発生します。

- (1) コード生成機能を使用するプロジェクトを作成します
- (2) 周辺機能の設定を行い、[ファイル]メニューの[保管]または[すべて保管]を選択してプロジェクトを保管します。
- (3) [C/C++]パースペクティブの状態、e² studio を終了します。
- (4) 再び e² studio を起動します。

2.5 回避策

コード生成機能を使用する場合、[コード生成]パースペクティブの状態、e² studio を終了するようにしてください。コード生成パースペクティブへの切り替えは、メニューの[ウィンドウ]→[Perspective]→[パースペクティブを開く]→[その他]を選択し、パースペクティブを開くダイアログで[コード生成]を選択して切り替えます。

上記 2.4 に記載の操作でプロジェクトの保管ができなくなった場合も、[コード生成]パースペクティブへ切り替えてから e² studio を終了、再起動することで回避可能です。

2.6 恒久対策

次期バージョンで改修予定です。(2016年7月予定)

以上

改訂記録

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
1.00	2016.06.16	-	新規発行

ルネサスエレクトロニクス株式会社
 〒135-0061 東京都江東区豊洲 3-2-24 (豊洲フォレシア)

■総合お問い合わせ先

<http://www.renesas.com/ja-jp/support/contact.html>

本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したのですが、誤りがないことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。

ニュース本文中の URL を予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。

すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。